

泉 いずみ

―目次―

表紙 「募金活動」

百折不撓 「能登地震②」

野呂大悟

募金活動御礼

野呂美道

いちごいちえ

野呂美道

はいしゃふっかつせん

野呂美道

連載「私の出会った神様たち③④」

ともに歩み 命に寄り添う⑨ 浄香

掲示板・お知らせなど

*付録 ハザードだより



三和町と東別院で募金活動

春の日や 小さな町に 善意の輪 博子

◆2月3日、安泉寺ハザード会は4名で三和町の募金活動を行った。北回りと南回り。ほとんどの集落の方々から温かい義援金を受け取った。事前に持って来た方、お隣にお金を託した方、後から持って来た方、など様々な形でご協力をいただいた。◆エピソード、数十年前から、買い物のお釣りの1円玉と5円玉を大きなプラスチックケースにいっぱい貯めこんだ貯金箱をそのまま頂いた。車に積むときに、ケースが劣化していて、一部がバリバリに破れた。◆後で、みんなで大騒動で数えたら、1円玉が1107枚、5円玉が583枚、その他今までに頂いたコインをすべて合わせると10432円にもなった。すごいことだ！◆通帳の私の口座にも多くのお金が振り込まれていた。2月10日の段階で、30万円以上が集まった。皆様のご厚意に心から感謝申し上げます。◆第一段階として、被災地で活動する「災害支援北陸門徒ネット」という活動団体に送った。その団体は現地に赴いて、炊き出し・物資の手渡し・お風呂の提供など、お互いの顔が見える直接的な援助を中心に活動している。◆義援金を贈る先をしっかりと把握しないと、変な風に使われてしまうという事を聞いた。現地の友人に確かめたところ、間違いなく信用できる団体なので、安心して送って欲しいという返事が来た。◆さて、その後、ハザード会は12日に東別院での募金活動にも参加した。ハザード会員高校生2名を含む総勢4名は雨上がりの名古屋別院に張り切って向かった。すでに別院輪番（最高責任者）によって机と募金箱が設置されていた。12日は別院開祖一如（いちによ）

上人の命日で、境内に市が立つ。大勢の参拝客に能登地震の募金を呼び掛けた。◆後で、大悟と小蓮も駆け付けた。そのほか、蠟燭屋の三清（さんせい）さんの真由香さんも来てくれた。◆驚いたのは教え子が偶然来てくれたことだ。マスクをして帽子をかむった私の姿を数十年前ぶりに見て、「野呂先生ですか？」と言ってくれたのには本当にびっくりした。よほど私の容姿には特徴があるらしい。◆そんなこんなで、賑やかに募金活動は終わった。後で、お金を皆で数えた。先月ほどではないが、今月は13万円を超える募金額だった。皆様方のお気持ちをこのような形で集めることができ嬉しい限りだ。引き続き、被災地に目を向けてください。有難うございました。



募金活動*東別院にて

◆外孫たちがインフルエンザに罹った。父親である次男は私の妻に電話をかけてきた。「イチゴを持ってきて！」と。◆以前彼らがコロナに罹った時も、イチゴを所望した。その時は妻と共に友人でイチゴ農家のかっちゃんから沢山買い求め、持って行った。◆孫たちが味をしめたとはこのことで、その時のイチゴの味が忘れられなかったらしい。今回は次男の嫁も罹患したとの事で、三度も同じようにイチゴを運んだ。2月のイチゴは値段もお手頃で美味しい頃だそう。ついでに私たちも手に入れて、食べてみた。◆私はわざわざスーパーへ出向いて、そこそこのイチゴを参考までに買い求め、家で試食した。◆はつきり言って、問題にならなかった。かっちゃんのイチゴはおしりのほうが絶妙な酸味と甘みのバランスがあり、先っぽのほうは、なんとも言えないアミに包まれる。まるで池の中に花開いた睡蓮のようなみずみずしさだ。◆スーパーのイチゴは形や色は美味しそうだが、全体に臍抜けた甘さしかなく、味にパンチがない。お値段もかっちゃんより7割も高い。(卸値と売値とは違うから当然だが)◆かっちゃんのイチゴ作りのノウハウは私には分からないが、おそらくとても丁寧な仕事ぶりが味につながっているのだろう。◆ところで、かっちゃんは同じ写真クラブのメンバーだ。彼の写真もイチゴと同じようにプリントの出来が素晴らしい。◆先日も成人式の娘さんを撮影した。彼は「OMGモード」という本格的な方法で撮影し、自分のコンピュータにフォトショップという画像処理ソフトを導入し、丁寧に

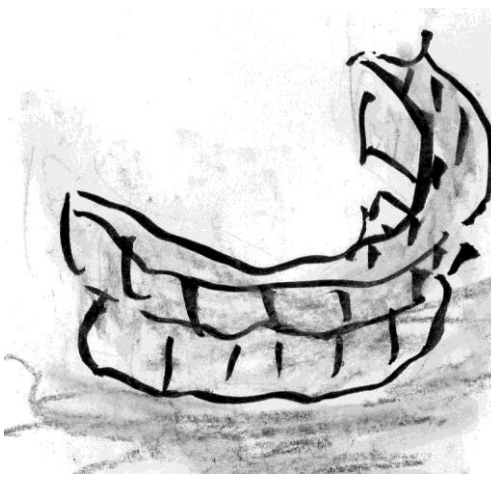
手作業で画像を創造してゆく。肌の温かさ、立体感、色のバランスなどが素晴らしい。◆かっちゃんはイチゴと同じように絶妙なノウハウを画像に加えている。それが誰にもまねのできない仕上がりにつながっている。◆このように、果物にしる、映像にしる、料理にしる、その人の努力度はどんなところにも出てしまうというのが私の新発見であった。◆「おふくろの味」というのがある。それは子供に注ぐ深い愛情という調味料があるから、食べた子供にしか分からない美味しさがある。◆どうも外孫の父親(次男)は大の果物好きなので、孫たちや嫁をダシに使ったきらいがある。親ばかな私たち夫婦はいつもこの手にまんまと引っかかってしまう。まあ、わざと引っかかってやってるのだけれど……



◆数年前、私は睡眠時無呼吸症と診断された。ただ、症状が軽いので、シーパップという大げさな装置を装着して眠ることは免れた。その代わり、歯科でマウスピースをはめるように指示された。◆紹介された歯科医院の院長は興が乗ってくる、私に色々な話をしてくれた。政治や行政の批判、税金の話、土地の話、本当に幅広く、私の様な世間の狭い患者に面白可笑しく語ってくれた。◆ただ、その時に私はとても困った。口をあいているので、いい返事ができない。「ウー」とか、「アー」とか相槌を打つものの、自分の意見はいつもうがいをする時しかかなわない。◆先日こんなことがあった。私が肩掛けのポシエットを床に置くときに、ドサツと音がした。院長はその音を聞き逃さなかった。「オー、重いものが入っていきそうですな。金塊だったら少し置いてってくださいよ。」

「アー、ひがいまひゅ、ひんではあいません（いえ、違います。金ではありません）」私も必死にしゃべったつもり。院長はいい気になっしてしゃべり続けた。「野呂さん、治療中は私の勝ち、患者さんはうまくしゃべれませんからね。言いたい放題ですわ。」そう言えば、麻酔をかけた歯の治療中、助手に必ず言われる。「痛かったら、左手を挙げてくださいなね。」でも、左手を挙げて、院長も助手も歯に注目して、絶対に左手を見ることも

ない。◆うがい中に私は言った。「先生、金のかけらはありませんが、私の歯のかけらはいくらでもありませんから、どうぞ。」院長「そんなの要りませんよ。」私「先生、こんな言葉を「ご存じですか？ Silence is gold.」（沈黙は金）」という西洋のことわざです。私が先生にあげられる金塊とはこんなところでしょうかな！」◆落ちを付けたつもりが、院長は全くひるまない。「ここでは言いたい放題ですが、家に帰ったら言いたいことも言えず、大人しくしているほうが家庭の平和が保てます。患者さんは私にとっては時々ストレス解消の役割もしてくれます。ありがとうございます。」◆再び治療中に院長は話しかけた。「喜劇役者は、控室や家庭では実に気難しいと言われています。エノケンだってチャップリンだって。」私は一瞬、機械を握っている院長に底なしの恐怖を感じたが、院長にすべてを託している身だから「ホ、ホーデヒユネ。」としか言えなかった。今度こそは歯医者（敗者）復活を狙う。



アキラ①

◆そして、戦後は戦争孤児の施設で働きました。色々な施設で働きました。◆そして、親のない子といっしょに暮らしました。その中で会った神様を一人紹介します。その子は「アキラ」といっていました。当時八才です。六才の時に上野の地下道で、餓死寸前のごころを保護されました。もう死にかかっていた。二年かかってやっと元氣になって八才。元氣になりますと彼は一週間に一回、十日に一回というように脱走を繰り返します。◆脱走するとまた町へ出て、悪いことを覚えて、身体も駄目にしてしまうのではないか。逃がしたくないのだけれども、手が足りないものですから、ちよっと目を離すと逃げられちゃうのです。◆そして、施設の塀がなくなっているのです。なぜなくなったのかというと、これはトモちゃんという子供が始めたのです。◆トモちゃんも空襲の夜に、お母さんの手を離れたまま、別れてしまった子なのです。もう二年も経っています。お母さんはどこかで死んでいます。さっきのように、どっかでガソリンをぶっかけられて、処分されているかも知れない。◆お母さんは死んでいるかも知れないけれど、お墓も知らないし、それではお母さん可哀そうだということで、八つになるトモちゃんはお墓を作りました。◆施設の庭に、板塀を引っぱがしてきて、のこぎり

で切ります。ぎざぎざの板のお墓、卒塔婆と同じようなものが出来まして、それを施設の庭に突き刺しましたね、戒名を書きましたよ。◆戒名なんかあるわけないのですけれども、自分で考えて書きましたね。「のりまき信女」というものです。海苔巻きを作るのがとっても得意なお母さんだったのでしようね。運動会、遠足、そういった思い出が、そういう戒名を作らせたのでしようね。◆そして、三度三度の食事、それもろくなものが出ない、今では想像もつかないような食糧難です。◆おじやでもない。おも湯の中に菜っ葉が一杯入っているようなものをトモちゃんは三度三度とつておいて、お母さんのお墓に持って行き、雑草の花を供えたりする子だったので。◆それを見て、お母さんと別れたほかの子供も、われもわれもと、みんな板塀を引っぱがしてきてみんな作りました。そして、それぞれ自分のお母さんにちなんだ戒名をつけました。太ったお母さんなら、太ったような戒名をつけるのです。(続く)



ともに歩み、命に寄り添う

第九回 心静かに受け入れる

浄香きよか

もしかして父は死を覚悟したのかも？ 看取りのなかでそう感じる事が時々ありました。

一回目はトイレに行こうとした時です。この時、すでに脚に力が入らない状態でした。父を支えながら歩いてみると、廊下で父の腰が抜けて座り込み、そのままコロナと横になってしまいました。私ひとりの力ではとても父を起こせないのです、訪問看護師さんに電話しました。廊下は冷えます。看護師さんが来られるまで廊下で寝て待つ父に毛布をかけると「廊下で寝てるねえ」とおもわず二人で笑ってしまいました。そして父は一言、「こうやって、一つひとつ諦めていくんやなあ」とつぶやきました。二回目は、看取りに入ってから透析でした。心筋梗塞を併発している父を透析に送り出すか、やめるかが私にとって最大の悩みでした。透析室の先生にご相談すると「できるだけ連れてきてください。待ちますから」とおっしゃいます。一方で、在宅ケアクリニックの先生は、「病院まで介護タクシーで往復させるのは、かなりの負担です。そもそも透析に耐えられるか分かりません。今の心臓の状態では透析中に亡くなる可能性もあります。娘さんは透析室に入れませんから、最期に一緒にそばにいてあげることができま

せん。無理に透析をしたとしても、残念ながら余命が延びることはありません。三〜四時間も血を入れ替えるのは、今の心臓の状態では、かなり辛い思いをさせることになります。それならば、家で娘さんと一緒に過ごす時間になさった方がいいのではないですか」とおっしゃいます。どちらの選択肢が正しいかなんて、私には分かりません。迷ったあげく、私は涙をこらえ「お父さん、しんどいなら無理に透析に行かなくてもいいよ。今日は透析をお休みしようか」と言ってしまったのです。これまで「透析には絶対に行つてね。台風でも大雪でもよ」と言ってきた私からの「透析を休んでもいいよ」という言葉。父は「いつも言っていることと違うことを言うね」ととても悲しそうな顔をしました。父はきつと「ああ、自分の命は長くない」と悟つたに違いありません。

急に来客が増え、新しい先生や看護師さんが家まで来られ、娘から「透析をお休みしてもいいよ」と言われても、いつも父は静かに「お父さんが生きているうちは大変だと思っけど、お父さんが死んだら寂しくなるよ。長生きせなあかね」と言うだけでした。そして、亡くなる前日に「すべて諦めた」とつぶやいただけで、どんなに体がしんどくても、息苦しくなってきたても、「死」については何も語らず、最期まで取り乱さず、心静かにすべてを受け入れるがごとく穏やかな父でした。



3月の行事予定

大成講 一日(金)

老人クラブ役員会 三日(日)

環境保全会役員会 九日(土)

追弔法要・勿忘の鐘 十一日(月)

文芸クラブ 十二日(火)

老人クラブ総会・写真クラブ 十六日(土)

ハザード会ボランティア 下旬

今月の掲示板

争わなない三十七兆個の細胞
争い続ける七十七億の人間

村上和雄

◆遺伝子研究の権威者の言葉。一人の人間はこれだけ多くの細胞の調和で生きているのに、その人間同士が国・民族・宗教・イデオロギーを
かけて争わなくてはならないなんて、何と悲しいことでしょう

いずみのほとり

◆ついに妻がコロナに罹ってしまいました。実は、遠方にいる母親との旅行の後、我が家に引き取る予定でしたが、あえなくすべてキャンセル。コロナには勝てません。

◆私はすこぶる健康。炊事・洗濯・お経・その他もろもろの雑事を、毎日汗を流してこなしています。しかし、日ごろ妻がやっている仕事がいかに大変かが分かり、感謝の気持ちで持てたことは収穫です。孫と同様、またまた美味しいイチゴが食べられて嬉しいです。

◆愛西市の市民活動のプレゼンテーションに行きました。避難場所を作ってくださいと市に働きかける運動です。ハザード会のMさん(高校3年生)は大変上手に説明してくれました。市民のために私たちが行う活動を是非理解して欲しいと思います。

◆審査員の中で、「募金と避難所設置は結び付かない」という意見がありました。それは、短絡的な考えです。私たちは、今目の前で起こっていることを、広く防災につなげていきたいと思っています。まず、困っている方々を助け、そこからの学びを避難所設置に向けて進めた行きたいのです。

◆三月下旬に、ハザード会で、能登の被災地にボランティアに出かけたいと思っています。困っていることがあります。運転手が見つかりません。普通免許で運転可能な、十人乗りのハイエース・グラントキヤビンを借りて向かう予定です。ボランティアに参加したいと思っていられる方、運転をしてもいいという方、是非、ご連絡下さい。

(全文・老僧)

